

私のカルテ

No 3 2 5

バセドウ病

はじめに

バセドウ病について皆さん、どのくらいご存知でしょうか。名前は聞いたことはあるがよく知らないという方が多いかと思われます。田中角栄、夏目雅子、ジョージHWブッシュ、絢香といった著名人がこの病気を患っていたと聞くと身近に感じていただけるでしょうか。

目が飛び出る、首の前の部分が腫れてくる、などの外見的特徴の他、心臓がドキドキする、汗をよくかく、体重が減るといった症状が出ます。高齢者では無気力、倦怠感などわかりにくい症状しか出現しない場合もあり長期間見逃されている場合もあります。直ちに命にかかわる病気ではありませんが、放置すると心不全、心房細動をきたして入院が必要となる場合もありますし、甲状腺クリーゼという危険な状態を招くこともあります。

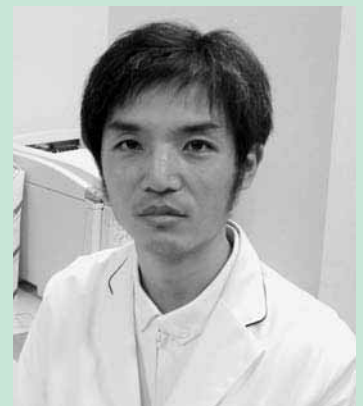
今回はバセドウ病について少しでも理解が深まるようご説明いたします。

バセドウ病とは

まず「甲状腺」は首の喉仏のすぐ下にある蝶のような形の10グラム程度の小さい臓器です。甲状腺から作られるホルモンは2つあり、サイロキシン(T4)とトリヨードサイロニン(T3)です。どちらも材料としてヨードが必要です。さらに脳の下垂体という部分からは甲状腺刺激ホルモン(TSH)が出て甲状腺の働きを調節しています。何らかの原因により体のどこかで甲状腺を刺激する偽の信号(自己抗体)が出て、これらのホルモンが持続的に作られ過剰な状態が続くのがバセドウ病です。

これに対して垂急性甲状腺炎や無痛性甲状腺炎のように炎症によって甲状腺が破壊され、甲状腺内に蓄えられているホルモンが血液に漏れ出て高くなる病気があり、バセドウ病と間違われる場合があります。

バセドウ病は幼児から老人までかかりますが20から40歳代に多い傾向があります。また女性に多い傾向があります。



津島市民病院
内分泌科主任医長
小澤 由治

響はないと考えられます。

バセドウ病の治療について

内服、放射線内照射、手術が挙げられますが、まずは大半の患者さんには内服をお勧めします。量を調整することでちよつと良い状態を維持することが他の2つに比べて容易だからです。

中断し増悪してしまつ患者さんの中にはいますが、内服治療で最も重要な点は忘れずに内服することです。

最後に

バセドウ病は早期発見、早期治療が大事です。怪しいと思ったら病院を受診しましょう。いったん治療が始まったらきちんと定期的に通院しましょう。

バセドウ病と生活習慣

喫煙はバセドウ病の薬物療法の効果を弱くして薬物中止後の再発率を高めます。また眼の症状を悪くすることが知られています。

バセドウ病の患者さんはヨード摂取量にはさほど気を使つ必要はないでしょう。ヨードが不足しても過剰になつても甲状腺機能低下症が起こりえますが、ホルモンが多い状態の時にはさほど影

